

令和6年度 事業実績報告

令和 7年 4月 1日
わきはまこども園

1、こども園の運営

所在地 貝塚市脇浜3丁目31-8

定員 90名(2号・3号) 10名(1号)

3月在園児数 104名

(内訳) 0歳児 6名 1歳児 15名 2歳児 16名
3歳児 19名 4歳児 26名 5歳児 22名

職員数 園長 1名 副園長 1名 事務長 1名

主幹保育教諭 2名 保育教諭 20名 派遣保育教諭 1名

管理栄養士 1名 調理員 4名(㈱淀川食品所属)

事務員 1名

2、保育目標

- ・ 体も心も元気な子の育成
- ・ 思いやりのある子の育成

(1)〔開園時間〕

午前7時～午後7時(保護者の状況により伸縮させる。)

〔基本保育時間〕(2号・3号)

午前9時～午後5時

午後6時～7時(延長保育料金徴収)(標準時間認定者)

午後5時～7時(延長保育料金徴収)(短時間認定者)

午前8時半～9時(延長保育料金徴収)(短時間認定者)

〔基本教育時間〕(1号)

午前9時～午後1時

午後1時～午後3時半(希望者は保育時間)

午後3時半～午後5時(延長保育料金徴収)

午前8時半～午前9時(延長保育料金徴収)

（２）保育・教育の内容

- ・園児の個性や成長を尊重し、理念、方針を基本とした保育・教育を心掛けた。
- ・体育や英語、習字、珠算の成果は、冬季の発表会のスライドにて発表し、平常は掲示やホームページでアピールした。会場に関して初めてコスモシアター大ホールを借り開催した。
- ・保育参観は年間で実施期間の分散型を廃止し、全クラス平日の一期間を設定することで保育教諭の労力を省力化し、実施した。
- ・令和５年度に引き続き、年長児が専門美術講師によるワークショップで年間通して保育と関連づけたストーリーの作品づくりを楽しみ、精神面での大きな成長のきっかけとなった。
- ・プール遊びに代わり、水遊びや泥遊びを実施した。理由としては①プール遊びによる乳幼児の事故が多く報告され、園にも水遊び等の際の注意指示が頻繁になった為。②プール遊びを実施することが感染症などのリスクを高める可能性がゼロではないと判断した為。
- ・５月には夕涼み会の代替として、園と父母の会共催で『おまつり遊び会』（４年目）を行った。
- ・感染症が減少傾向となった３月に年長児がお別れ遠足として、バスで天王寺動物園に遠足に行った。
- ・食材料費高騰が続き、給食やおやつに関して、品質は保持しつつ節約の共通認識を持ち、安全な給食、おやつ作りに努め、管理栄養士や食育担当保育教諭による食育活動は盛んに行った。
- ・また光熱費高騰も続いており、電気代節約対策に関しては感染症対策と熱中症予防等を並行して行い、部屋の電気はこまめに消す等の地道な努力を徹底した。
- ・コロナ禍にあまり流行らなかったRSウイルス等が冬場を中心に流行った。
- ・食に関する活動はコロナ禍前に近い形で、夏や冬の食育に関する行事、バイキング給食等を再開した。梅収穫や梅ジュース作り、五感を刺激する食育の

取り組み等、衛生管理を徹底した上で行った。

- ・ 亀など動物のお世話、植物や野菜の園芸活動等、自然との触れ合いを充実させることを重視した。
- ・ 夏には貝塚いぶき作業所さんのご厚意により年長児が陶芸の絵付けを体験し、園内で作品を展示した。
- ・ 8月には脇浜町会主催の夏祭りに参加し、わきはま音頭等を踊った。
- ・ 1月には十日戎の日に福参りをさせて頂き、地元根付く日本の伝統行事に触れる機会をいただいた。
- ・ 3月には5年ぶりに、西校区福祉委員会主催の独居の高齢の方々とのいきいきランチの会に参加し歌や楽器演奏を披露した。
- ・ 中学生の職業体験や高校生の職業体験は依頼がなかった。
- ・ 短期大学や大学の実習生を6月に2名、8月に1名、10月に1名、12月に1名＋地域限定保育士の見学実習1名を受け入れた。
- ・ ボランティアは受け入れ希望者がなかった。
- ・ アルバイトは7月と2月と3月に、1名ずつ受け入れた。
- ・ 新卒採用活動を行い、わきはまこども園で2名を採用した。
- ・ 引き続き処遇改善加算を受ける中で、可能な範囲でキャリアアップ研修を受講した。コロナの影響がほぼなくなり、対面での研修も徐々に増えてきた。オンライン研修6回、対面研修14回受講した。(キャリアアップ研修以外) キャリアアップ研修は、食育研修1名、マネジメント研修1名、受講し認定を受けた。
- ・ 保育士の処遇改善加算ⅠとⅡ、更に6年度も特例事業費補助金も実施された。
- ・ 保育士の処遇改善加算Ⅰは例年通り3月に手当として支給した。
- ・ 園の方針に則り、各クラス内での保育のみにとどまらず、各自、任された担当業務を遂行し、皆で力を合わせた業務を実践する事が出来た。
- ・ 前年度と比較し、感染症の流行は目に見えて減った。

(3) 保育・教育担当

- ・ 担当保育教諭を定め、園長は総括指揮をとった。
- ・ 事務長は運営事務に関する総指揮をとった。
- ・ 積極的に職場研修を推進した。
- ・ 管理栄養士、調理員の配置で、子どもの安全、健康づくりを図った。

3、 保育・教育設備

園舎・・・前年度と同様、美化に努めた。

◎桜の木の剪定と消毒。

◎遊具や砂場の保守点検業務について(株)ビティへ引き続き依頼した。

◎職員の業務省力化で、専門業者へ週二回の清掃を引き続き依頼した。

(主にエントランスから廊下、トイレ清掃)

備品 (主に購入した物)

○父母の会の補助を受けて跳び箱のロイター板とおもちゃ類

○調理室内の劣化、破損した分の食器類

○絵本類

○ビジネスフォン総入れ替え (リース)

○デスクトップパソコン1台

○ノート型パソコン7台

○タブレット2台

○エアコン (かもめ組2台、ひばり組2台、事務所1台、調理室1台)

○熱中症対策テント

○給湯器

○除菌機能付害虫駆除機

4、 資金の計画

施設型給付費収入と補助金収入をもって収支均衡を図った。

5、 その他

引き続きインターネット関連の業務、安全防犯対策として機械警備、給食会社への委託を行う。

以上

わきはまこども園
園長 山田尚子